

# 2022年3月期決算

決算説明会資料（2022年5月27日）

# Contents

Chapter  
01

会社概要

Chapter  
02

2022年3月期 決算概要

Chapter  
03

2023年3月期 業績見通し

| Chapter 01 |

# 会社概要

---

**SHINWA CO.,LTD.**

## PURPOSE 命を守り、未来を支える

### OUR MISSION

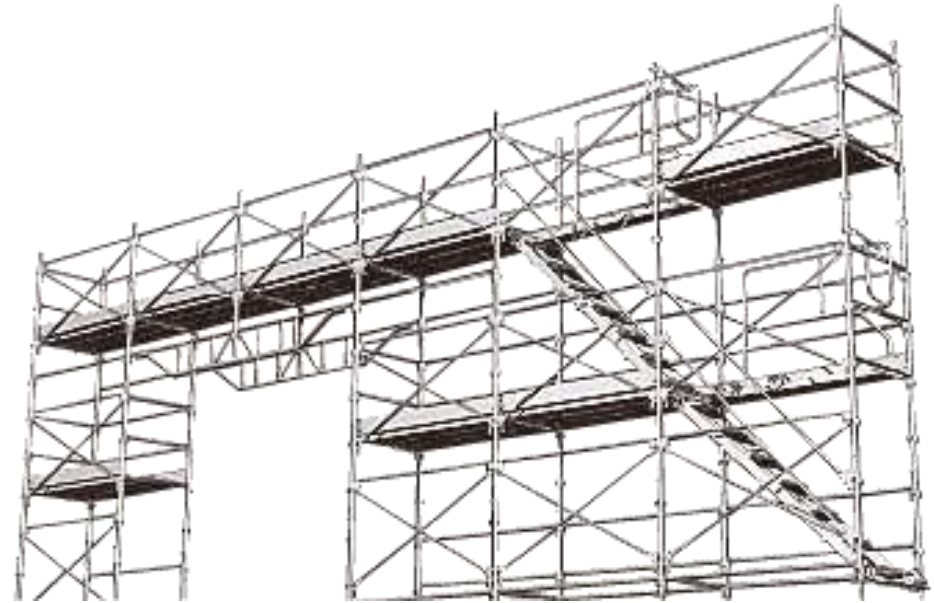
私たちは、製品・サービスを通じて大切な「命」を守ります

私たちは社員のやる気を応援し、「夢と未来」の実現を支えます

### OUR VISION

私たちは、お客様から信頼される企業を目指します

私たちは、お客様とともに成長を続けます



# 当社の沿革



- 1977** 信和商店として事業を開始
- 1978** 仮設資材「ジャッキベース」の製造を開始
- 1988** システム足場市場に進出
- 2003** 物流機器部門を設立
- 2016** 次世代足場SPSの製造・販売を開始
- 2017** 海外製造・販売を開始
- 2018** 東証2部・名証2部に株式を上場
- 2019** 東証1部・名証1部へ指定替え  
中国に広東日信創富建築新材有限公司を設立
- 2022** 東証スタンダード市場・名証プレミアム市場へ移行

## くさび緊結式足場に繋がる足場の系譜

### 木製（丸太）足場

- 古代から昭和初期まで使用されていた木材や竹材を素材とした足場
- 現在では神社仏閣の修繕の際のように限定的に使用される

### 単管足場

- 鉄製パイプを素材とした足場で、木製（丸太）足場と比較して強度が高い
- パイプと組み立てに必要な器具がバラバラになっており、組み立てには高度な技術が必要

## 次世代足場に繋がる足場の系譜

### 枠組足場

- 戦後アメリカからの輸入された足場
- 部品同士が溶接されており、単管足場・くさび緊結式足場と比較して強度が高い
- 足場が溶接されているため分解が出来ず、輸送や保管にコストがかかる

## くさび緊結式足場

当社製品：シンワキャッチャー

- 単管足場と同様、複数のパイプを組み立てる必要があるが、予め組み立て用の器具がパイプに溶接してある
- 枠組足場と比較して組み立てが容易で省人化が可能
- 組み立て式であるため、輸送コストが抑えられ、保管スペースも最小限に留めることができる

## 次世代足場

当社製品：SPS

- 製品の概要はくさび緊結式足場と類似
- くさび緊結式足場と比較して組み立て時の静音性に優れている
- くさび緊結式足場の機動性に加え、部品の抜け止め機能を高めており、枠組足場の強みである強度を打ち合わせている

**くさび緊結式足場 + 次世代足場の総称 = システム足場（※）**

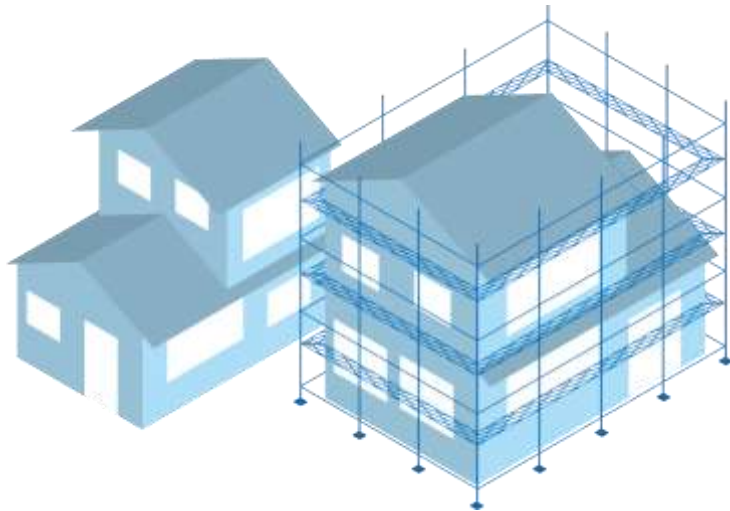
（※）本資料においてはこの定義に基づき説明を行っております

# 建築物に用いられる主な足場の種類 ①



低層

戸建て住宅等

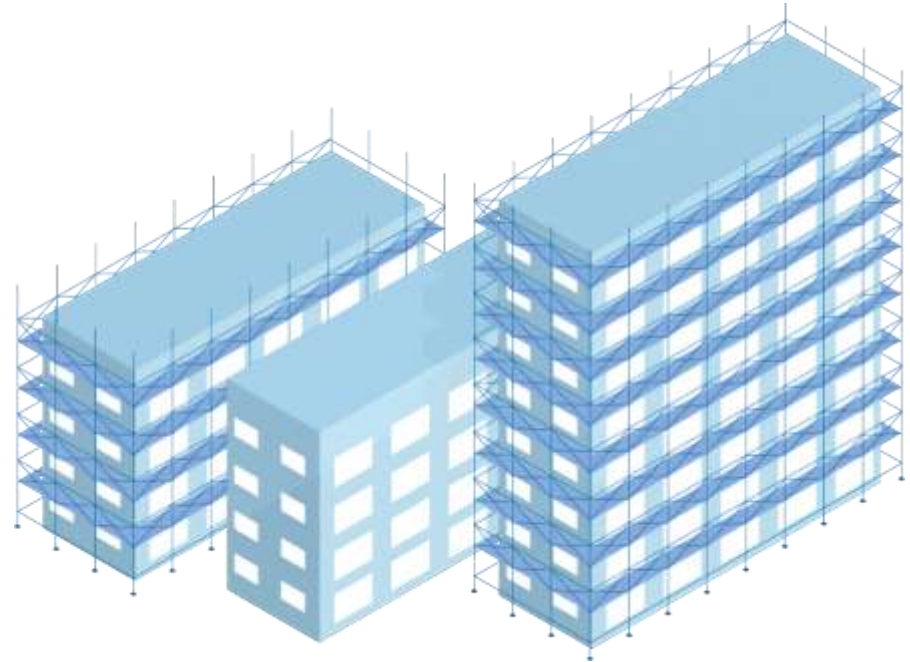


くさび緊結式足場・枠組足場



中高層

ビル・大型マンション等



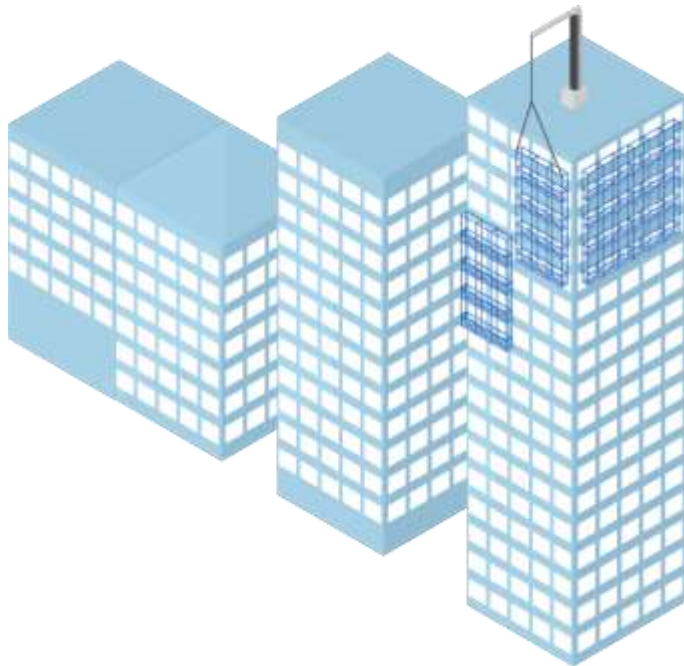
くさび緊結式足場・枠組足場・次世代足場

# 建築物に用いられる主な足場の種類 ②



## 超高層

タワーマンション等

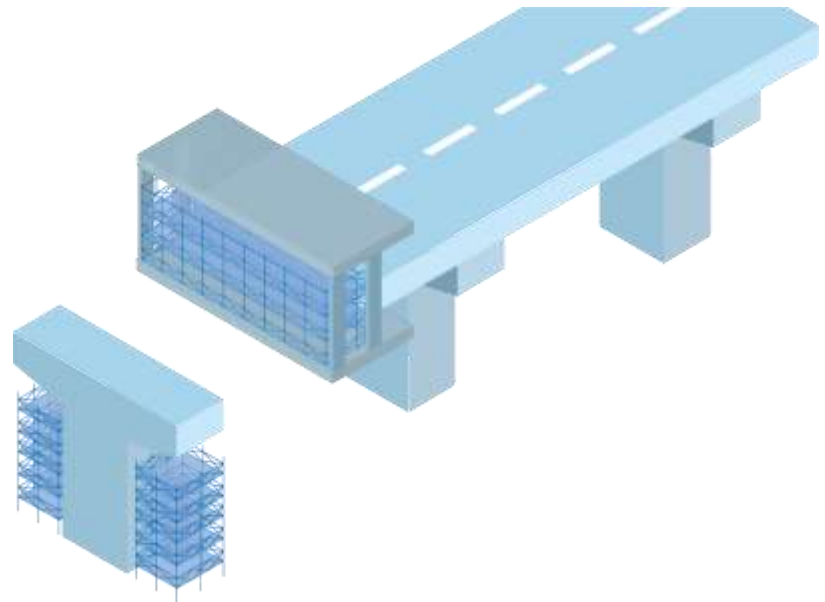


次世代足場・連層足場



## 土木・橋脚

高速道路・道路橋脚等



次世代足場・枠組足場・吊り足場



# 当社の独自ポジショニング

## 低層から超高層まで

幅広いマーケットへ製品を供給できる唯一の企業



**低層**

戸建住宅

**中層**

マンション

**高層**

大型マンション・ビル

**超高層**

タワーマンション

くさび緊結式足場

次世代足場

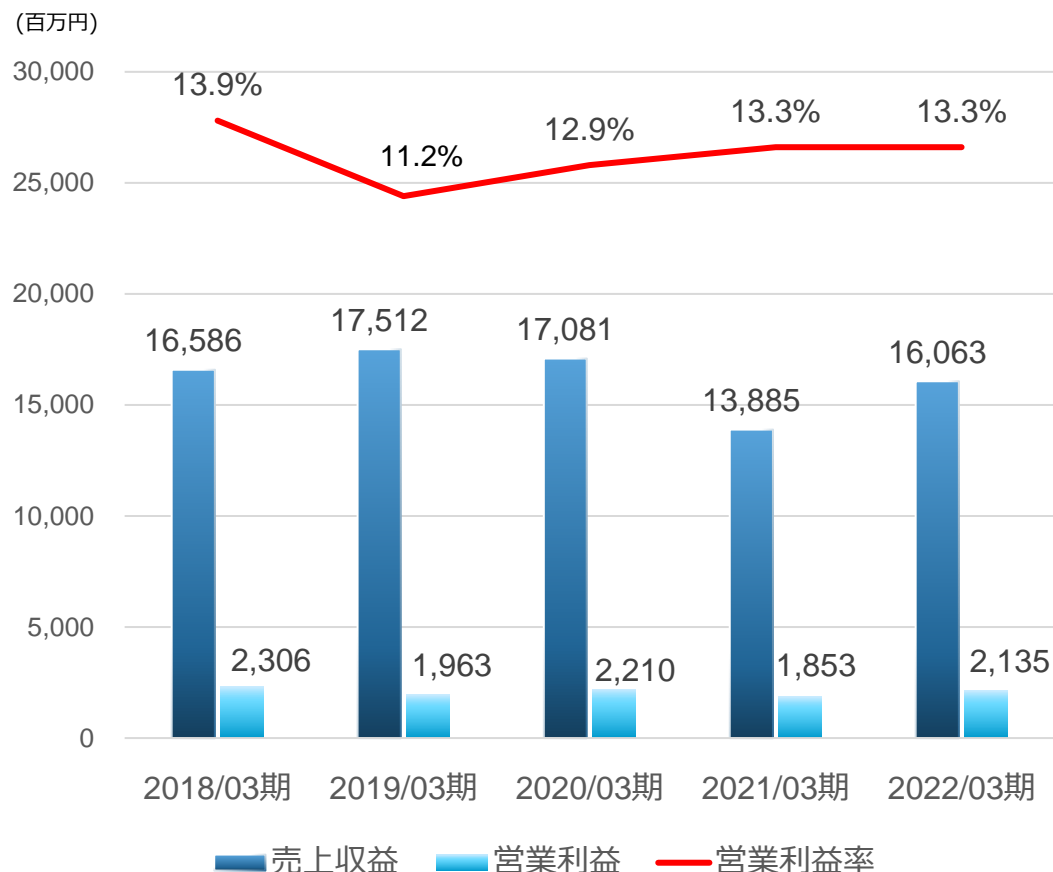
連層足場

## 高い営業利益率

- ① 高品質な製品を適正価格で供給できる生産体制
- ② 優良顧客との安定的な取引関係による高い市場シェア

2022年3月期は原材料高による売上原価の増加があったものの、高利益率を確保

## 上場からの事業状況



## 1 国内屈指の生産能力

---

100台を超える溶接ロボットの導入による製造工程の半自動化や省人化によって安定した品質と生産能力を保有。また、お客様のニーズに応えられる多品種の生産にも対応

## 3 顧客ニーズを捉える開発力

---

お客様と対面で進めるオーダーメイド品の製造等、多品種スピード生産能力が支える「ニーズに応えられる力」を保有

## 2 徹底した品質管理

---

一般社団法人仮設工業会の基準よりも更に厳しい自社基準を設け、それをクリアした製品のみを供給。定期的な破壊試験や製造設備の開発により高品質なモノづくりを実践

## 4 顧客へのサポート体制

---

ハード面のみならず、施工に関わる法令や強度計算等のユーザーサポート、仮設工業会の承認・認定取得等、ソフト面の整備にも注力

| Chapter 02 |

# 2022年3月期 決算概要

---

*SHINWA CO.,LTD.*

# 2022年3月期 決算ハイライト

売上収益

**16,063百万円（前期比+15.7%）**

建設業界における民需の持ち直し、企業活動回復に伴う輸送用機器及び大型倉庫関連の需要の高まりなどにより増益

売上  
総利益

**4,122百万円（前期比+13.8%）**

安全措置資材など高付加価値製品の需要が継続しつつ、仮設資材の販売が回復したことに加え、大型物流倉庫関連案件が貢献

営業利益

**2,135百万円（前期比+15.3%）**

固定費の削減、新規投資案件の見直し等、あらゆる手段を通じたコスト削減・支出抑制に取り組む。営業利益率は前年と同様13.3%

当期  
利益(※)

**1,452百万円（前期比+17.9%）**

当期利益率、前期比0.1pt改善し9.0%

※親会社の所有者に帰属する当期利益

当期利益率(%) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 売上収益 × 100

トピックス

- 2021年5月14日～28日 自社株買いを実施
- 2021年12月14日 中期経営計画を発表

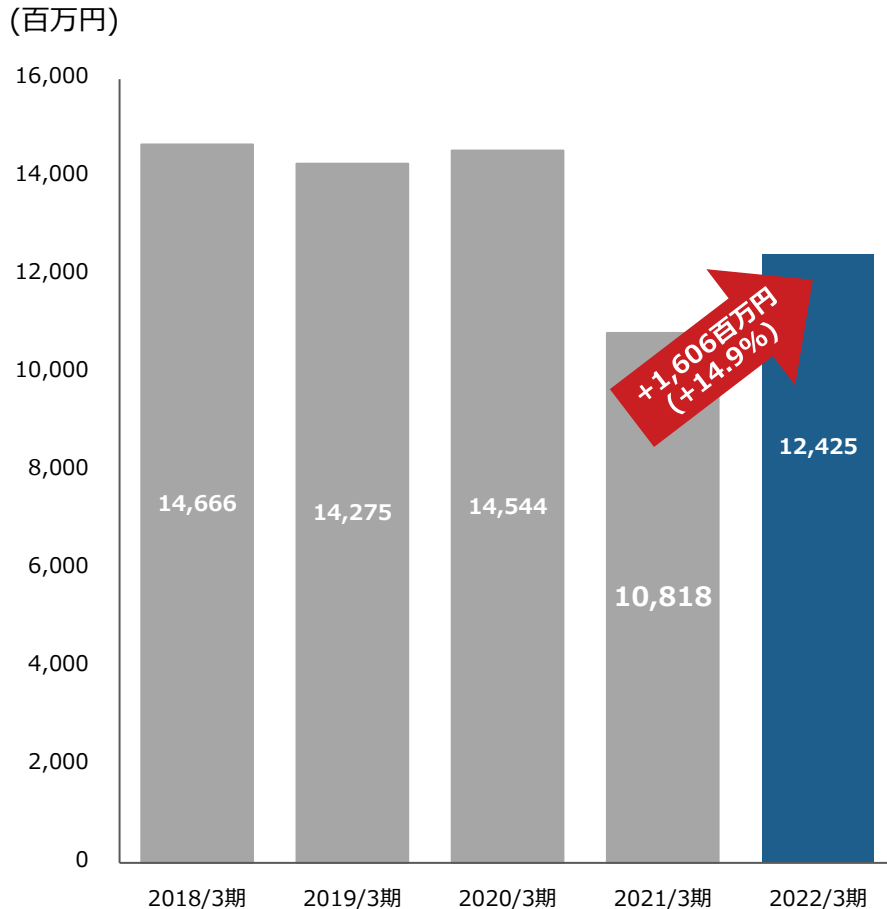
# 2022年3月期 連結業績

(IFRS 百万円)

	2020.3月期	2021.3月期	2022.3月期			
	実績 (売上比)	実績 (売上比)	計画 (売上比)	実績 (売上比)	計画比 増減額 (増減率)	前期比 増減額 (増減率)
売上収益	17,081 (100.0%)	13,885 (100.0%)	16,000 (100.0%)	16,063 (100.0%)	+63 (+0.4%)	+2,177 (+15.7%)
仮設資材部門	14,544 (85.2%)	10,818 (77.9%)	12,600 (78.8%)	12,425 (77.4%)	▲174 (▲1.4%)	+1,606 (+14.9%)
物流機器部門	2,536 (14.8%)	3,066 (22.1%)	3,400 (21.2%)	3,637 (22.6%)	+237 (+7.0%)	+570 (+18.6%)
売上総利益	4,329 (25.3%)	3,621 (26.1%)	– (–%)	4,122 (25.7%)	– (–%)	+500 (+13.8%)
販管費等	2,119 (12.4%)	1,768 (12.7%)	– (–%)	1,986 (12.4%)	– (–%)	+217 (+12.3%)
営業利益	2,210 (12.9%)	1,853 (13.3%)	2,050 (12.8%)	2,135 (13.3%)	+85 (+4.2%)	+282 (+15.3%)
親会社に帰属する 当期純利益	1,467 (8.6%)	1,231 (8.9%)	1,372 (8.6%)	1,452 (9.0%)	+80 (+5.9%)	+221 (+17.9%)

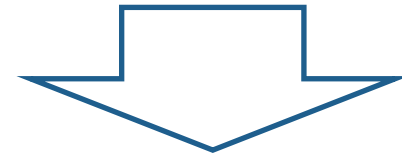
# 部門別の状況／仮設資材部門

## 売上収益の推移



## 当期連結累計期間の状況

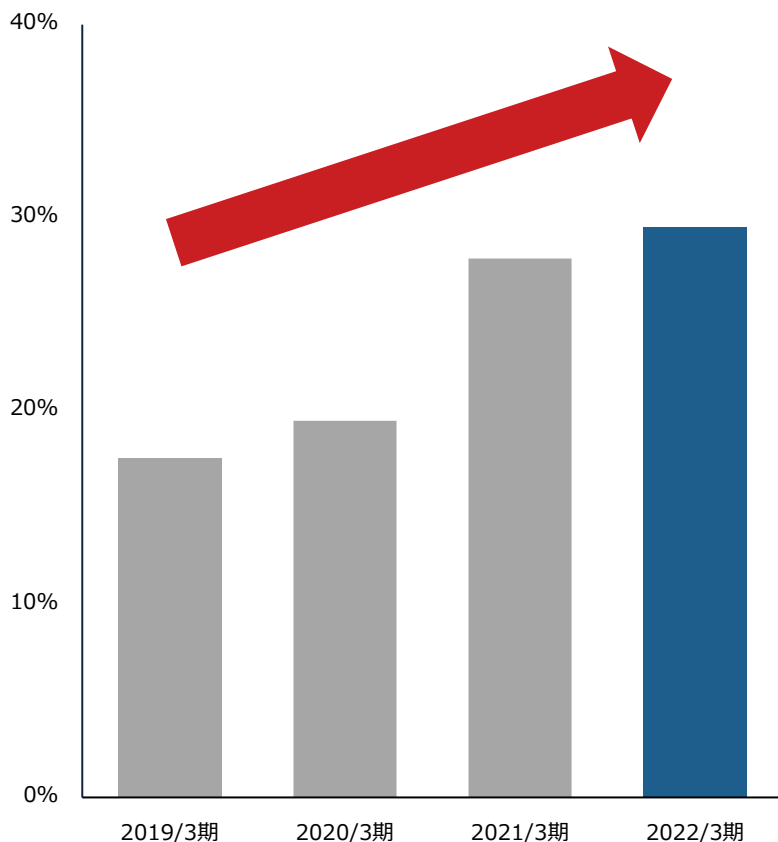
- 建設業界における底堅さを背景に、システム足場の需要が堅調に推移した。
- 工事現場における安全性向上を目的とした安全措置資材の需要が引き続き推移し、売上収益が堅調に推移した。



**売上収益12,425百万円。**  
**前期比14.9%増となり、前年を上回る結果となる。**

# 安全措置資材の拡大

## 売上収益に占める安全措置資材の割合



※ 当社製品キャッチャーAに占める割合

## 先行手摺の状況

- 建築工事現場における安全性重視の傾向は引き続き堅調に推移。
- システム足場などにおいては、安全措置機材の採用比率が上昇を続けている。

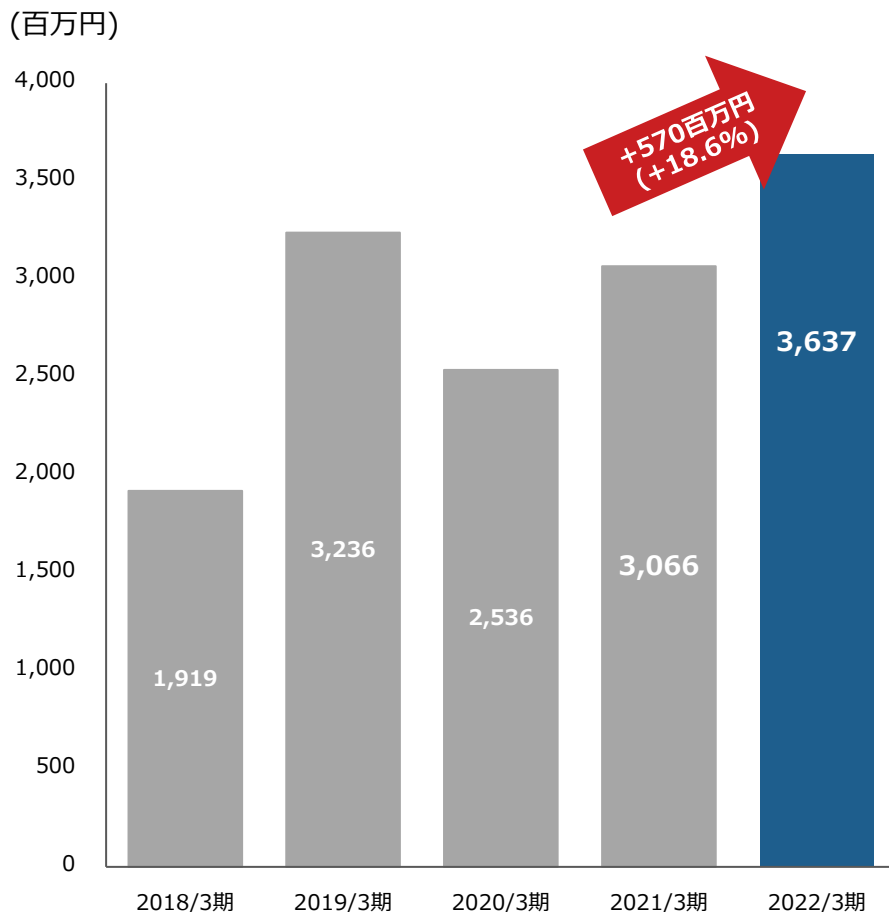


**国内シェア40%を  
獲得**



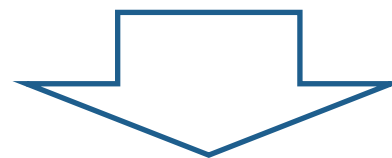
# 部門別の状況／物流機器部門

## 売上収益の推移



## 当期連結累計期間の状況

- 経済及び企業活動の活発化が一段と強まり、物流機器の需要増加につながった。
- 一部サプライチェーンの停滞により、追加の輸送機器の需要が生じた。
- 大型倉庫案件も堅調に推移した。

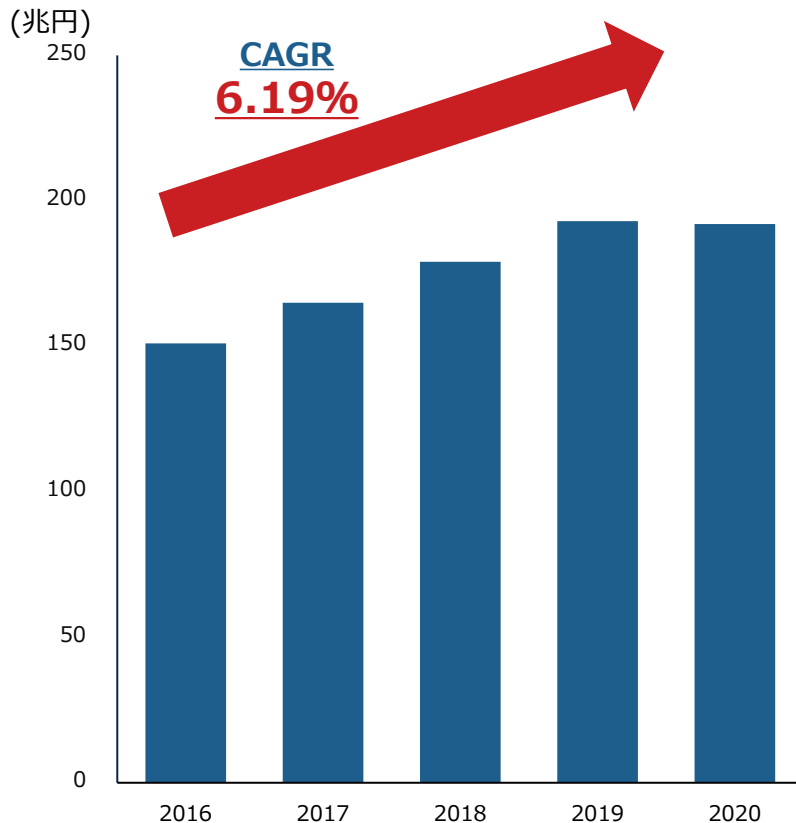


**売上収益3,637百万円。**  
前期比18.6%増となり前年の業績を上回る結果となった。

# EC市場規模と倉庫・物流施設工事受注額の推移

EC市場規模の拡大に伴い、倉庫・物流施設の工事受注額の拡大が続く

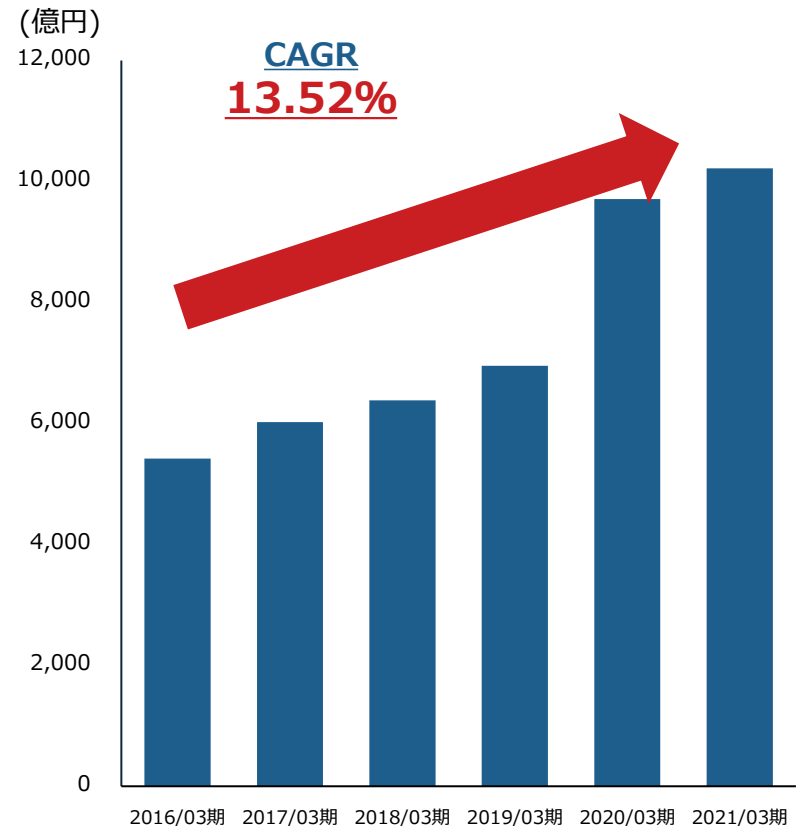
## EC市場規模の推移



出典：経済産業省「電子商取引に関する市場調査」

SHINWA CO.,LTD.

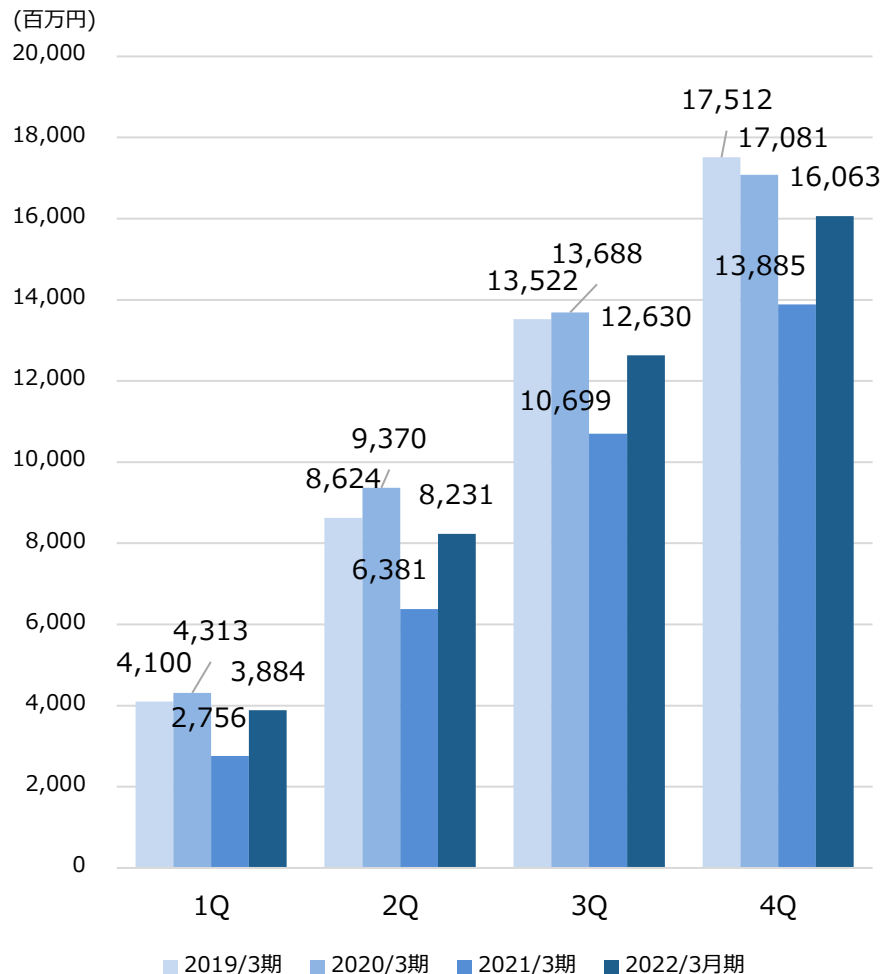
## 倉庫・物流施設工事受注額の推移



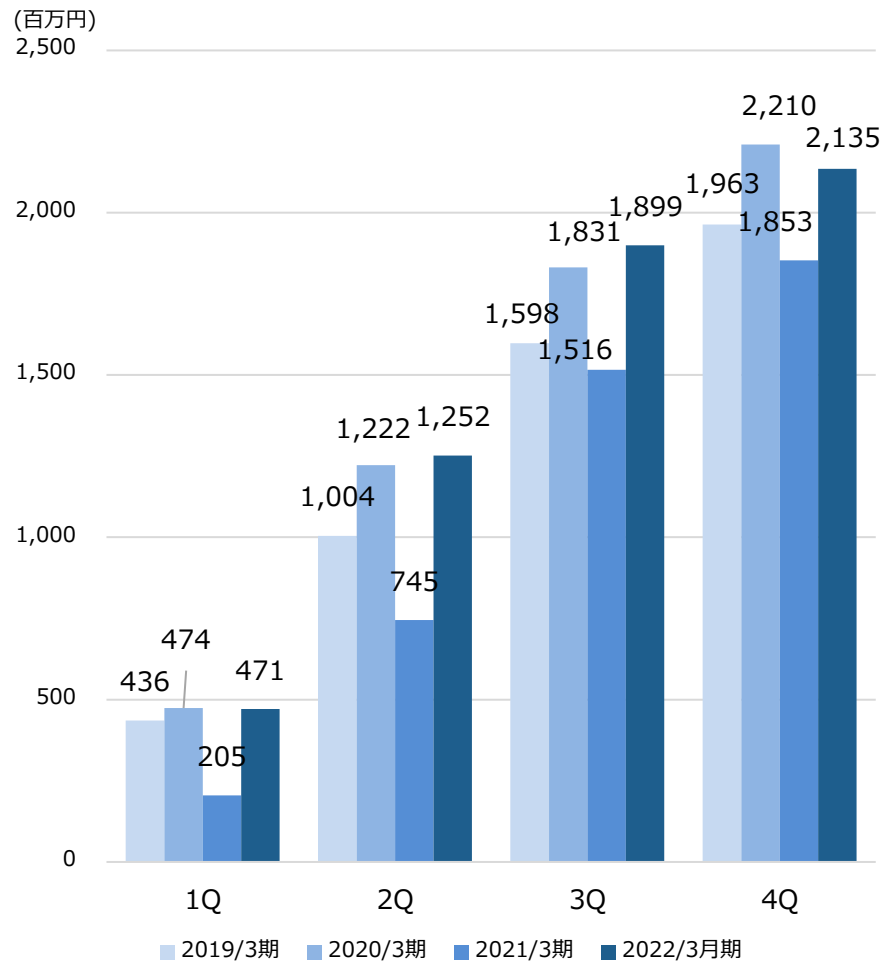
出典：国土交通省「建設工事受注動態統計調査（大手50社調査）」

# 2022年3月期 四半期累計推移

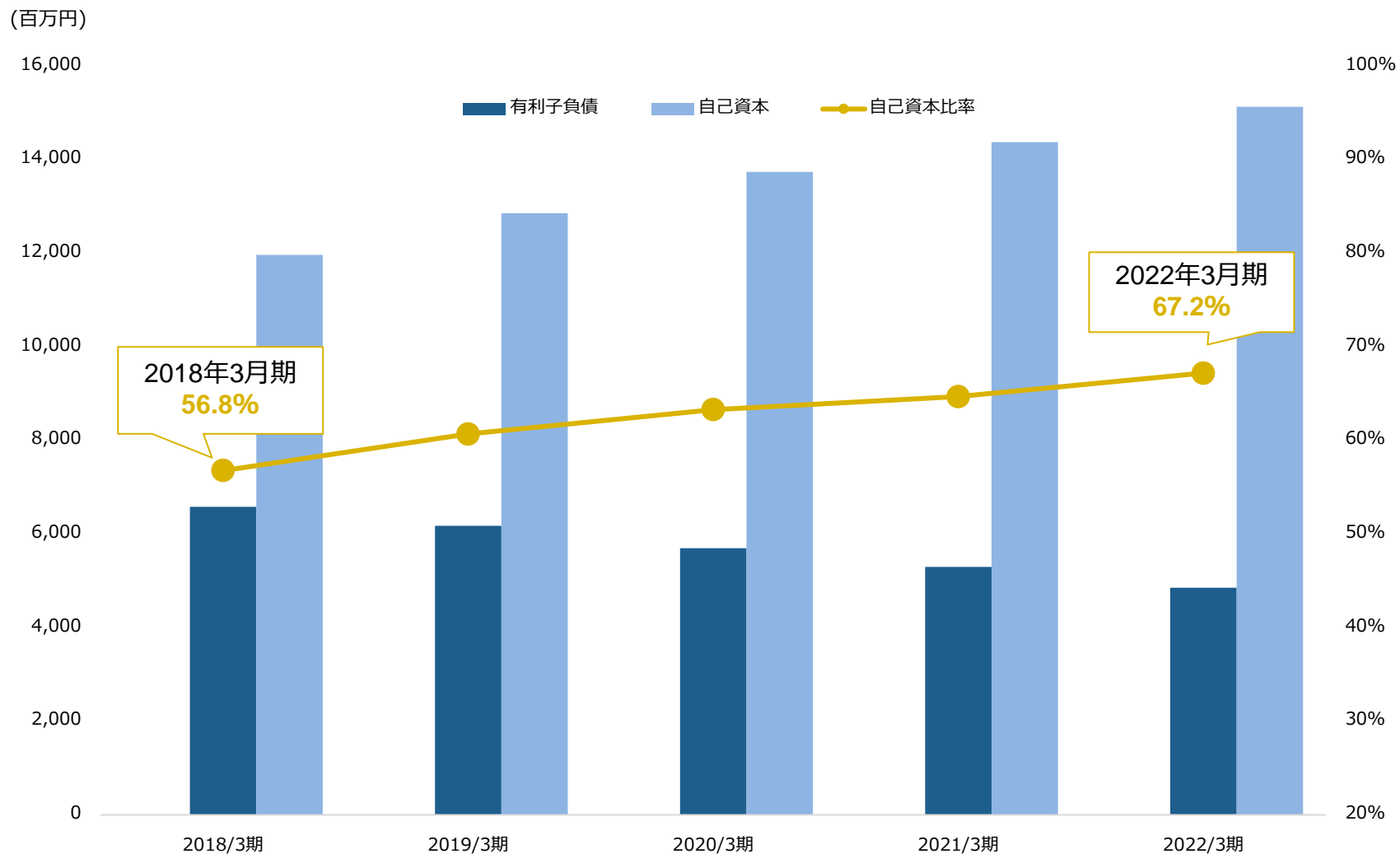
## 四半期累計売上収益



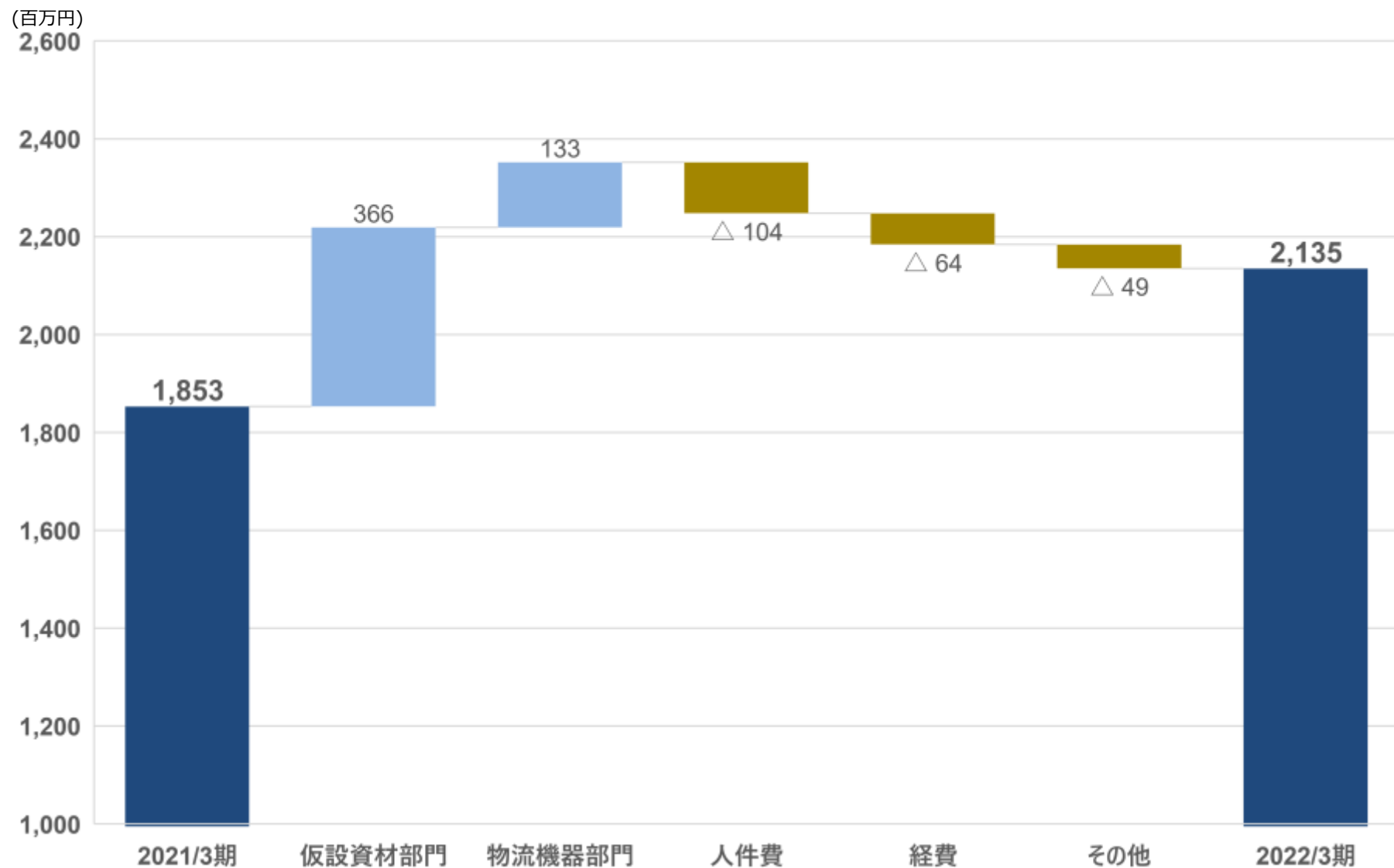
## 四半期累計営業利益



# 充実した自己資本



# 営業利益 増減分析



# バランスシート増減要因

(IFRS・百万円)

	2021年 3月期末	2022年 3月期末	増減額
流動資産	9,290	9,081	△210
非流動資産	12,945	13,434	+489
<b>資産合計</b>	<b>22,236</b>	<b>22,515</b>	<b>+279</b>
流動負債	2,428	3,552	+1,123
非流動負債	5,364	3,804	△1,560
<b>負債合計</b>	<b>7,793</b>	<b>7,357</b>	<b>△436</b>
<b>資本合計</b>	<b>14,443</b>	<b>15,158</b>	<b>+715</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>22,236</b>	<b>22,515</b>	<b>+279</b>

## 増減要因

(百万円)

### 流動資産

・現金及び現金同等物	△1,277
・棚卸資産	+984

### 非流動資産

・有形固定資産	+396
---------	------

### 流動負債

・営業債務及びその他の債務	+388
・借入金	+1,041

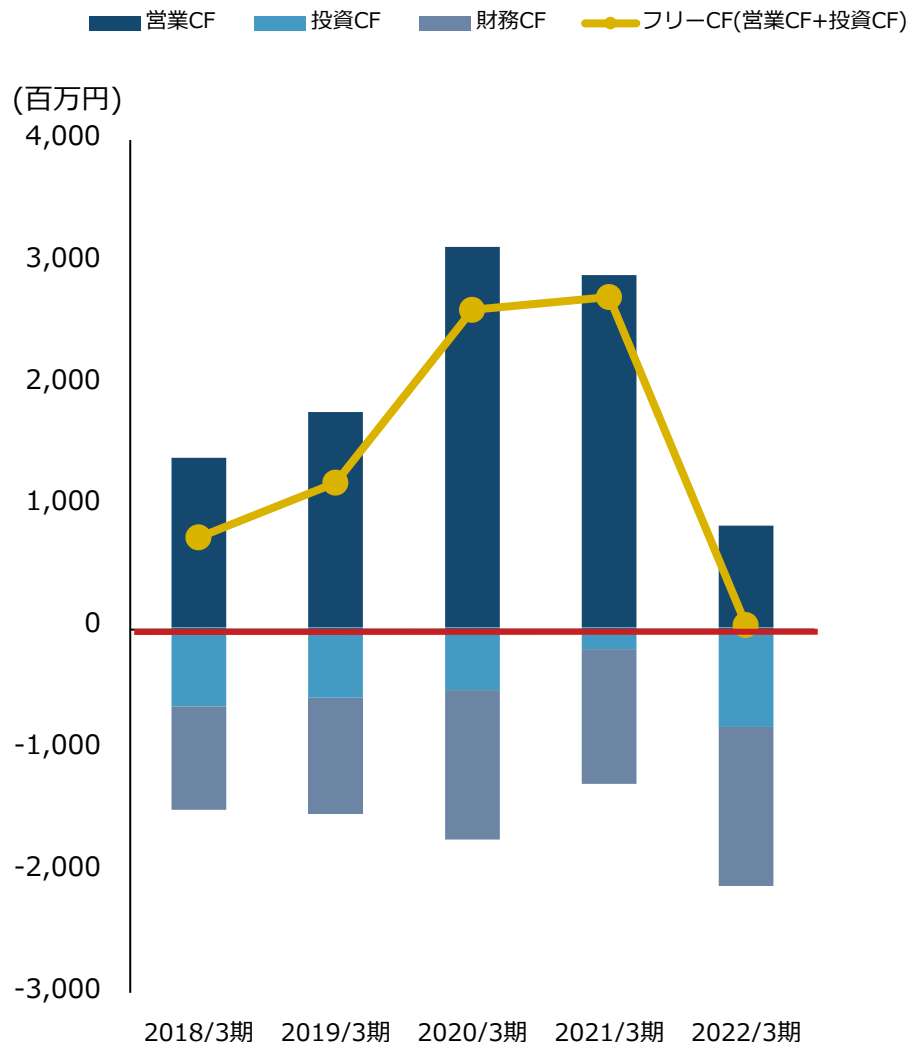
### 非流動負債

・借入金	△1,482
------	--------

### 資本合計

・親会社の所有者に帰属する 当期利益の計上	1,452
・配当の実施	△493

# キャッシュ・フロー計算書増減要因



## 営業キャッシュフロー

(百万円)  
**835**

税引前利益	+2,063
減価償却費	+546
棚卸資産の増加	△982
営業債権及びその他の債権の減少	+211
法人税等の支払額	△895

## 投資キャッシュフロー

△**817**

有形固定資産の取得による支出	△676
無形固定資産の取得による支出	△136

## 財務キャッシュフロー

△**1,306**

短期借入金の借入による収入	+1,114
長期借入金の返済による支出	△1,500
配当金の支出	△497
自己株式の取得による支出	△299

| Chapter 03 |

# 2023年3月期 業績見通し

---

*SHINWA CO.,LTD.*



# 中期経営計画の概要について

## 中期経営計画期間中の各部門計画

### 仮設資材部門

- 枠組足場から次世代足場への切り替えの促進
- レンタル事業の強化

### 物流機器部門

- レンタル事業の拡大による売上収益増加を図る
- アライアンス先との共創関係の強化を図る

### 躍進分野

- 国内の新たなマーケットへの進出及び海外市場での事業強化を図る
- 既存事業とのシナジーが期待できる企業のM&Aを検討

KPI	2022年3月期実績	2023年3月期目標	2024年3月期目標	2026年3月期目標
売上収益（百万円）	16,063	17,000	18,500	25,000
営業利益（百万円）	2,135	2,200	2,270	3,500
EBITDA（百万円）	2,689	2,882	2,900	4,300
EPS（円）	105.4	105.4	117.0	171.3
ROE	9.8%	9.4%	10.0%	12.0%
配当性向	40.8%	40.8%	40.0%以上	
自己株買い（百万円）	299	資本の状況に応じて検討		

# 2023年3月期 通期連結業績予想

売上収益は需要の回復に伴い、堅調に推移するものの、利益面は鋼材の価格が当面の間は上昇が継続するものとみられる。販売価格の見直しなど、収益性の確保の取り組みに努め、増収増益を見込む

(IFRS・百万円)

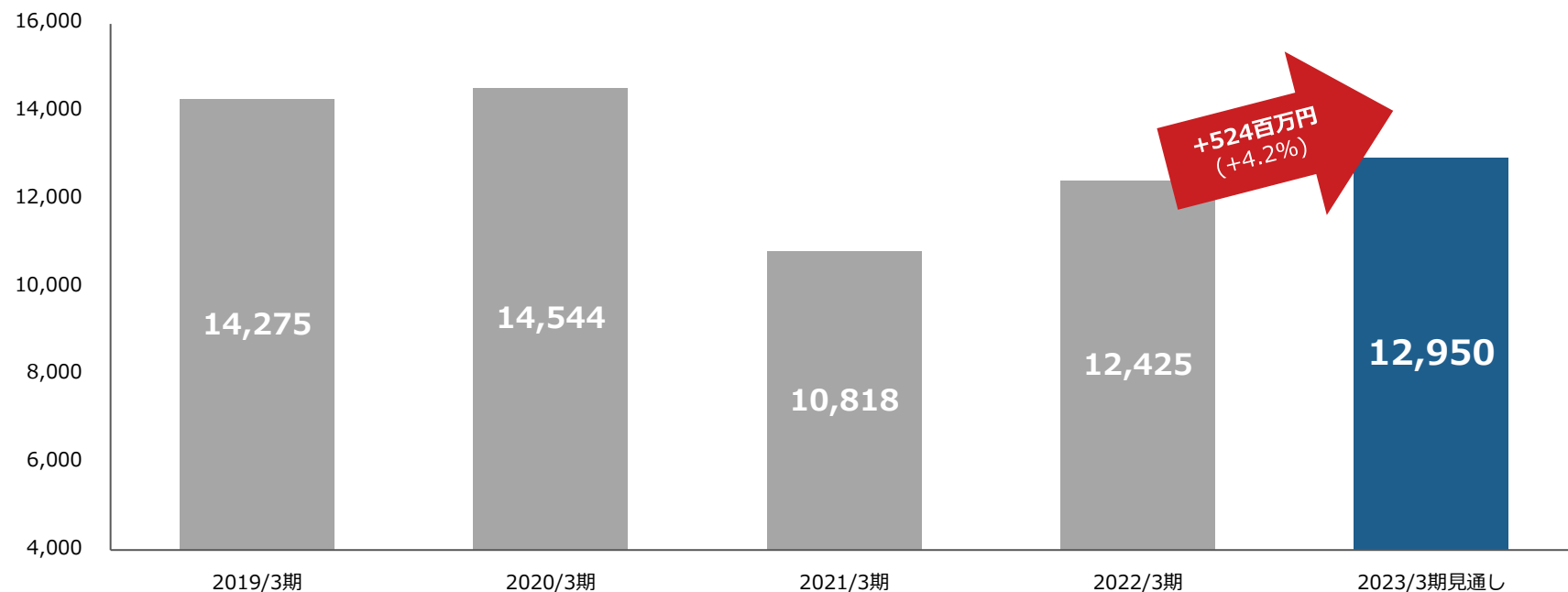
	第2四半期累計			通期		
	2022年3月期 実績 (売上比)	2023年3月期 予想 (売上比)	計画比 増減額 (増減率)	2022年3月期 実績 (売上比)	2023年3月期 予想 (売上比)	計画比 増減額 (増減率)
売上収益	8,231 (100.0%)	8,600 (100.0%)	+368 (+4.5%)	16,063 (100.0%)	17,000 (100.0%)	+936 (+5.8%)
営業利益	1,252 (15.2%)	1,090 (12.7%)	▲162 (▲13.0%)	2,135 (13.3%)	2,200 (12.9%)	+64 (+3.0%)
税引前利益	1,217 (14.8%)	1,048 (12.2%)	▲169 (▲13.9%)	2,063 (12.8%)	2,120 (12.5%)	+56 (+2.7%)
親会社の所有者 に帰属する当期 利益	846 (10.3%)	730 (8.5%)	▲116 (▲13.7%)	1,452 (9.0%)	1,465 (8.6%)	+12 (+0.8%)
基本的1株当たり 当期利益(円)	61.19	52.53	—	105.36	105.43	—
1株当たり 期末配当金 (円)	—	—	—	43.0	43.0	±0

# 業績見通し／仮設資材部門

安全措置資材など高付加価値製品の需要は引き続き高く、その他商品群も含め、一定水準以上の需要は続くものと想定

## 売上収益の見通し

(百万円)

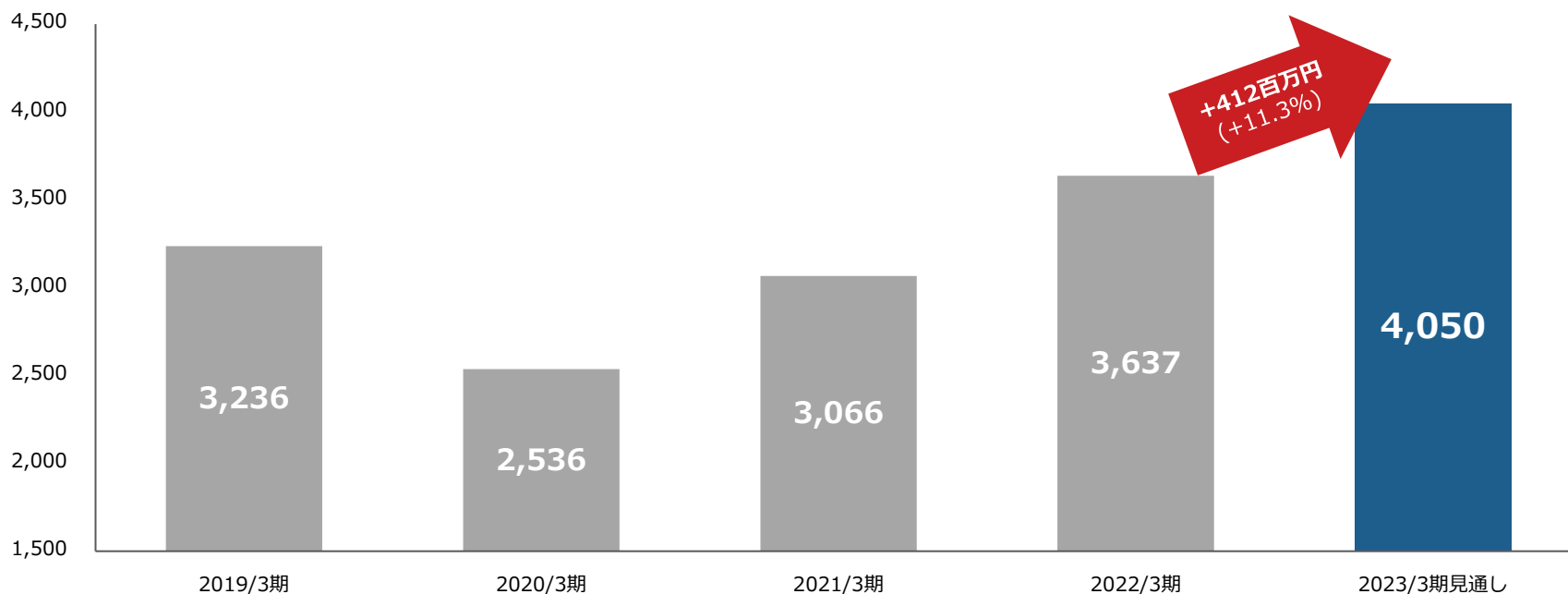


# 業績見通し／物流機器部門

搬送用バルクコンテナ、物流倉庫向けラックなどは引き続き堅調に推移を見込む。また幅広い分野での新規案件の拡販に努める

## 売上収益の見通し

(百万円)

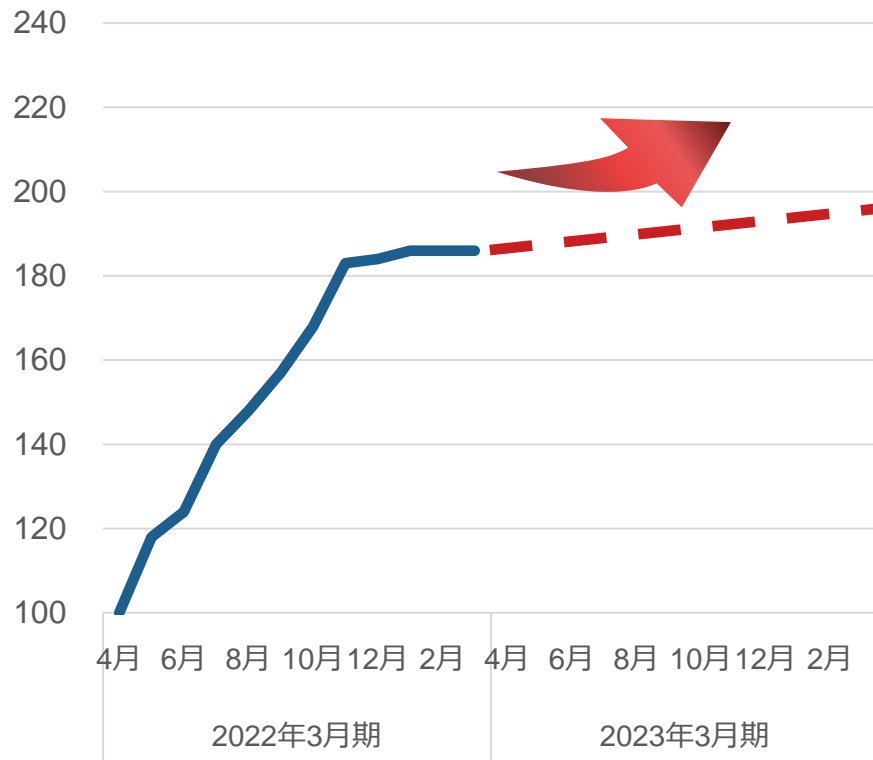


# 原材料価格の推移見通し

当社製品の主要な原材料である鋼材価格は引き続き上昇が継続するものと想定

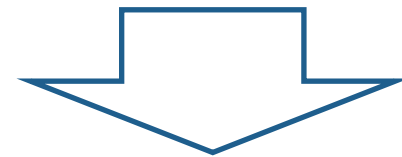
## 鋼材価格の上昇率（イメージ）

2021年4月度を100とした場合の上昇イメージ



## 価格高騰の背景

- 新型コロナウイルス感染症の影響による世界的なサプライチェーンの遅延
- 円安基調に伴う調達コストの上昇
- ウクライナ侵攻を契機とした供給懸念の高まりによる、国際的な商品価格の上昇



主原料や副資材の価格が高止まりし  
鋼材市場は上昇が続くと想定

# 株主還元について

当社グループでは、株主の皆様に対する利益還元を経営上重要な課題の1つとして位置付ける

## 基本方針

将来における安定的な企業成長と経営環境の変化に対応するために、**必要な内部留保資金を確保しつつ、経営成績に応じた株主への利益還元を行う**

## 配当性向目標

基本方針のもと、**配当性向  
40%以上**  
を目標に実施

## 2023年3月期予想

2022年5月13日開示の業績予想を踏まえ、  
**1株当り43円**  
(配当性向40.8%)

## 内部留保資金の使途

財務体質の強化を図るとともに、一層の事業拡大を目指すための**設備投資**や**人材育成**など、有効な投資資金として活用し、**企業価値の向上に努める**

## 注意事項

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

 信和株式会社

岐阜県海津市平田町仏師川30-7

部 署 — 経営企画部 IR課

T E L — 0584-66-4436

e-mail — [ir@shinwa-jp.com](mailto:ir@shinwa-jp.com)